

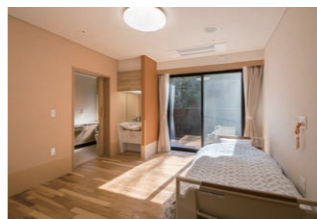
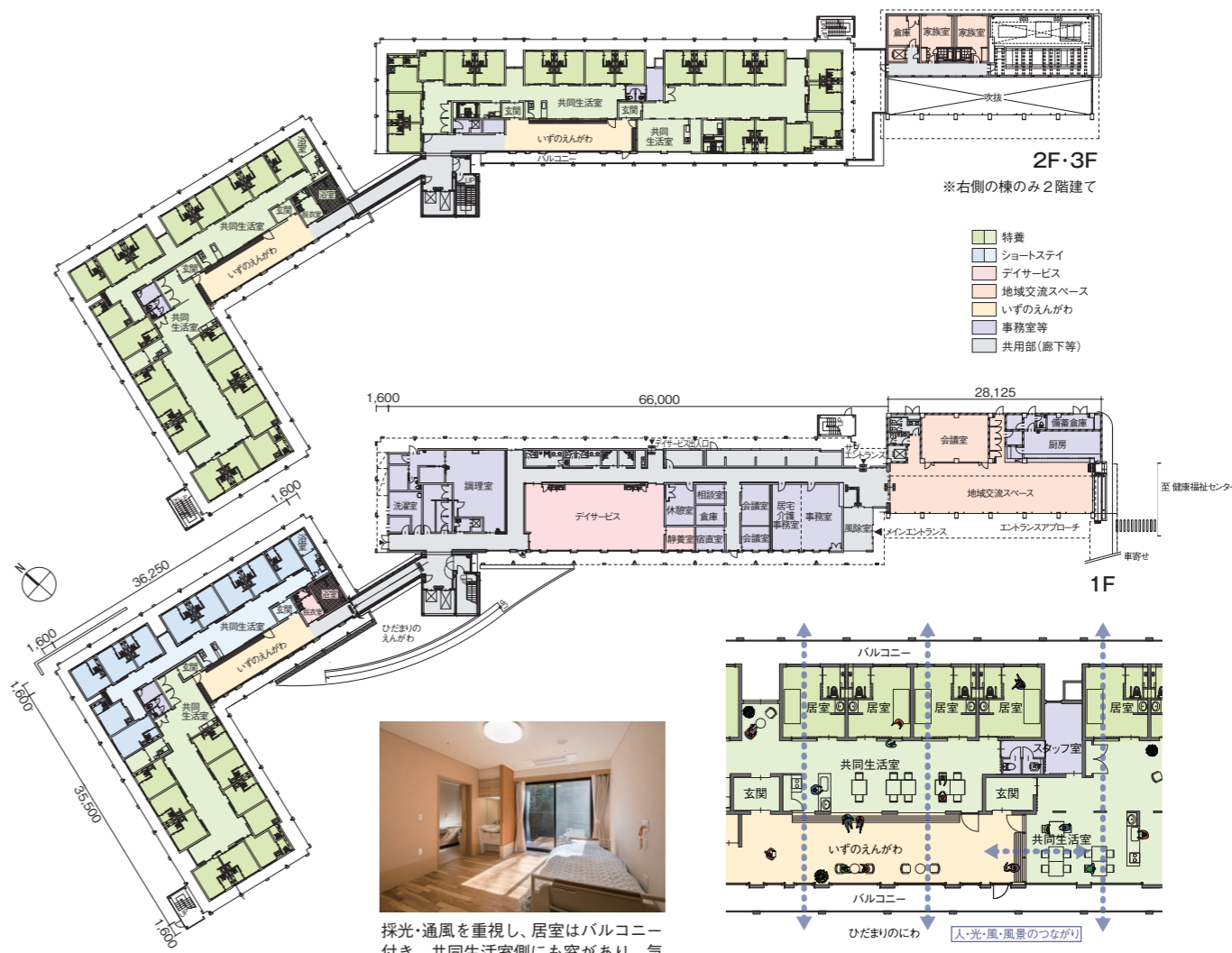
老人福祉施設

Nursing Home

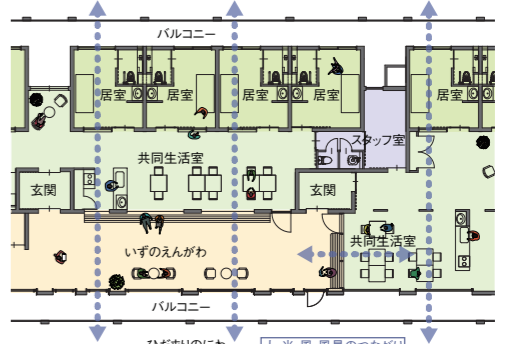


複合介護施設「エクレシア南伊豆」のエントランス。木造であることにこだわり、右手前の棟の1階とエレベーター棟以外はツーバイフォーの耐火構造で建てられた。

周囲の風景との調和を図り、敷地に沿って大きな切妻屋根を連続させた外観。杉並区・南伊豆町の両地域の介護施設不足の解消だけにとどまらず、健康・福祉・教育の拠点になるようにと、健康福祉センター（右手前）との併設整備が行われた。



採光・通風を重視し、居室はバルコニー付き。共同生活室側にも窓があり、気配を共有する。



居室～共同生活室～いずのえんがわと開口部が連続することで人の気配が伝わる安心感があり、光、風、南伊豆の景色を取り込める、明るく開放的な空間構成となっている。

全国初の自治体間連携による複合介護施設

2018年3月に静岡県南伊豆町に開所した本施設は、全国初の自治体間連携による特別養護老人ホームを主とした複合介護施設です。東京都杉並区では40年以上前から南伊豆町に区立の保養施設等をつかっており、区民が入所可能な「保養型特養」の構想を同町に持ち掛けたことから始まりました。杉並区には特養の建設用地の入手という課題があり、また、南伊豆町には介護施設不足や地元経済振興という課題がありました。それらを解決する取組みとして両自治体と静岡県が協議を重ね、2015年、南伊豆町が主体となり、施設を建設・運営する社会福祉法人を公募しました。特別養護老人ホーム（定員90名）、ショートステイ（定員10名）の整備を対象とするもので、同町では隣地に健康福祉センターを一体的に整備することになっていました。

公募で選ばれた事業主が提案したのは、特養とショートステイのほかに、デイサービス、地域交流スペースを併設する約6,000㎡の複合介護施設。事業主は、「人にやさしく、自分らしく暮らせる家」というコンセプトのもと、高齢者に住み慣れた環境を提供したいと木造にこだわって、ツーバイフォー耐火構造を主とした3階建てとし、さらに内外装も木を多用する提案を行いました。事業主が木造を選んだ理由には、入居者・スタッフの身体的負担の軽減、地盤補強コスト削減という意図もありました。

また、入居者の「個」と「交わり」を大切に設計コンセプトのもと、各居室の集まりを一つの家と見立て、家庭のリビング

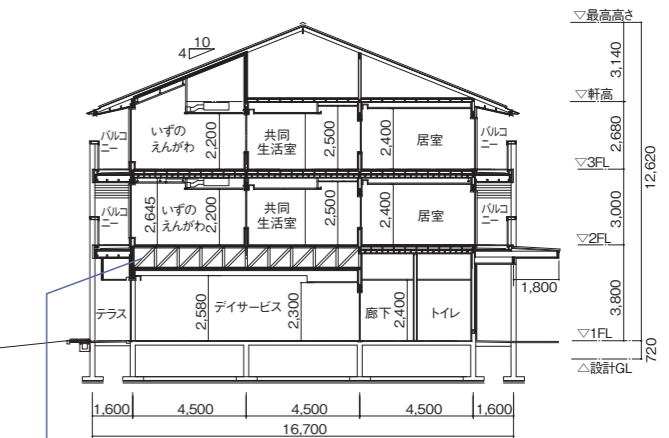


半外部の軒下空間をイメージした「いずのえんがわ」（3階）。入居者同士の交流はもとより、家族との面会の場となる。ここから玄関入り、共同生活室、居室へとつながるプランになっている。共同生活室側の室内窓の下は収納付きベンチ。

のような温かな雰囲気「共同生活室」や、縁側のように座って伊豆の景色を楽しめるオープンスペース「いずのえんがわ」を共用する提案を行いました。耐力壁と開口部をバランスよく配置した設計により、それぞれの空間の開口が連続し、どこにいても人の気配が感じられるのが特徴です。「ここまで開放的な空間ができるとは思っていませんでした。高齢者の皆さんの生活をお預かりするのにふさわしい佇まいもうれしいですね」と事業主は語ります。



共同生活室のダイニングルーム。間取りの中央部に位置するが、「いずのえんがわ」側の室内連続窓により、外の風景も眺められる明るい空間になっている。壁には手すりが見え隠れしている。



大空間が求められるデイサービス上部には平行弦床トラスとLVL梁が採用されている。

物件概要	規模	施工
エクレシア南伊豆	3階建て 敷地面積6,619.64㎡ (2,002.44坪) 建築面積2,724.84㎡ (824.26坪) 延床面積5,968.06㎡ (1,805.34坪)	熊石井組 建方工事 三井ホームコンポーネント組
所在地：静岡県賀茂郡南伊豆町 主な用途：特別養護老人ホーム（兼ショートステイ、デイサービス）	事業主 社会福祉法人祥友会	工期 2016年10月～2018年1月
構造 枠組壁工法（耐火建築物） 一部RC造、S造	設計 設計・監理： 熊松田平田設計 設計協力（構造）： 株梓川設計	法規・敷地条件 用途地域指定なし 建蔽率70%、容積率200% 地盤改良実施



工事中の3階の「いずのえんがわ」。